



「どうですか？ 私のおっぱいは美味しいですか？
遠慮せずにいっっぱい飲んで良いですからね♡」

「ん、んむむ♡」

「何も怖くないですよ、そのまま私に身を委ねて下さいね♡
おっぱい吸いながら、そのままお漏らししましょうね♡」

「んむむ♡」



「あは♥ 坊やが良い子良い子♪ お漏らしよく出来ましたね♥」

「んむっ♥」

「良いんですよ♥ いっっぱい私に甘えて良いんですからね♥ 私に甘えてっ、おっぱい吸ってっ、お漏らししましょうね♥」

「んっ♥」

おっぱい



「…んふふ♡ すっかり良い子になりましたね♡
やっぱり人間の男の子って可愛いですね♡」

「ん♡ん♡ん♡」

「反抗的だったこの子も、ちよつとおちんちん弄りながら、
おっぱいミルク飲ませただけで、すく良い子になっちゃいましたね♡」

「ん♡ん♡」

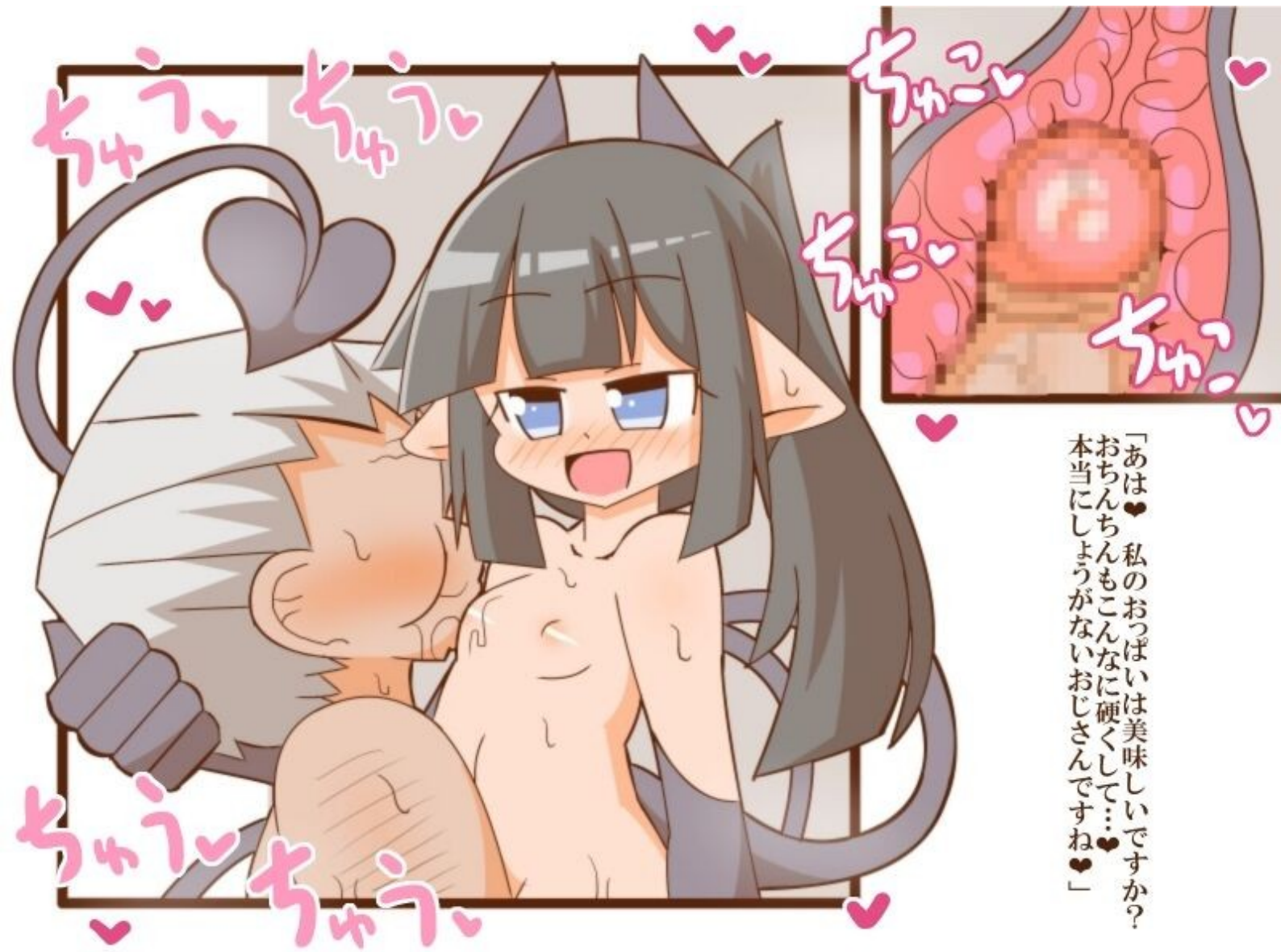


「ほらあ♥ も〜とおっぱい飲んでおバカちゃんになっちゃんましようね♥ おっぱいちゅうちゅう吸って〜 おちんちんミルクただ漏れしましようね〜」

「ん〜♥ ん〜♥」

「良い子良い子〜♥ 良い子良い子〜♥」

END



「あは♡ 私のおっぱいは美味しいですか？
おちんちんもこんなに硬くして…♡
本当にしようがないおじさんですね♡」



「あ♡ おちんちんピクピクしてきました♡
もう漏らしてしまいますか？
いいですよ、
そのまま漏らしてしまいなさい♡」



「あ♥出てる♥
私のおっぱい吸いながらお漏らししてる♥
可愛い♥」



「同族ではこんな変態プレイは
出来ないでしよう？
良いのですよ。
いっぱい私のおっぱいに甘えて下さい♡
ふふ♡」

END